

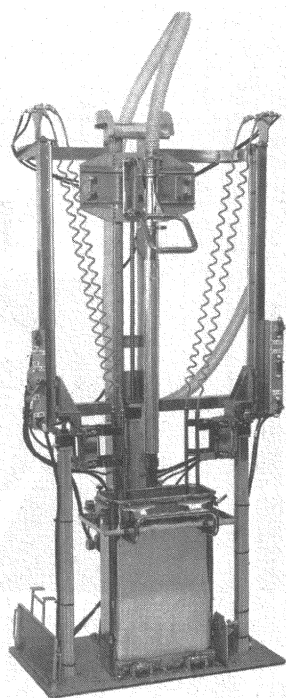
粉体機器の開発加速

防爆エリアで使用可能

赤武エンジン 電池向けなど投入

【静岡】赤武エンジンアリング（静岡県沼津市、赤堀肇紀社長、055・925・6666）は、防爆エリアで使用可能とした粉体吸引補助装置「パウダーワープリーTE」など3モデルを28日投入する。独自の粉体制御技術を生かしており、粉体の取り出し、供給、計量の各作業を効率化し、人手不足が深刻な製造現場への貢献を目指す。主力の食品、医薬品に加えてリチウムイオン電池など成長分野に攻勢をかける。

今回投入するパウダーワープリーTEは、手動でセットした紙袋し作業を補助する。自らが、価格が手ごろで、手作業を楽にできる装置へのニーズの高さに対応した。



粉体吸引補助装置「パウダーワープリーTE」

粉体の性質に応じて、安定した吸引ノズルの空間を確保することで発塵を防止。ノズル先端からのエアブローと紙袋下方から振動を加えることで、袋内の残留粉を最小限に抑えて防爆対策とした。

価格は単体で250万円（消費税抜き）と、自動機に比べて約4分の1という。販売目標は年間100台。粉体供給装置2モデルの受注も開始する。高精度計量が可能なコインバルブ型フィーダー「コインバルブミニ」は、電動シリンダーを使った高速・精密制御で微少排出に対応する。連続重量式供給システム「スクリュースケール」は、速度検出器を備えたスクリーンフィーダーと自社開発の専用コントローラーを搭載し、連続排出量を制御する。

「I」を使った高速・精密制御で微少排出に対応する。同社は食品、医薬品関連などを顧客に持つ粉体装置メーカー。粉塵爆発の防止などを含めた独自の粉体制御技術が強み。近年は電池など成長分野で顧客開拓を進めている。

日刊

THE NIKKAN

工業

KOGYO SHIMBUN

新聞

11月21日 水曜日

2018年(平成30年)

TODAY

09 粉体機器の開発加速
赤武エンジン、3モデル投入